

令和4年度第1回郷土文化館協議会 概要

1 日 時 令和4年11月25日（金） 午後2時～3時45分

2 会 場 松永記念館 広間

3 出席者

（1）郷土文化館協議会委員

一寸木委員長、鳥居副委員長、篠原委員、田尾委員、高橋委員、田嶋委員、山下委員、石井委員、加藤委員

（2）市事務局側

鈴木文化部長、小澤副文化部長、田村生涯学習課長、鈴木係長、田中主任、小澤主任、吉野主事

4 会議の概要

（1）議題4 報告事項「令和3年度・令和4年度上半期 郷土文化館事業について」（資料1～12）

このことについて、まず会議資料に沿って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

① 「令和3年度 松永記念館入館者数（資料1－1、1－2）」

委員より、松永記念館の利用者増について質問があったが、前年度と比較し開館日が30日程度増えていること、新型コロナが収まりつつあるため来館者が増え、秋の建造物公開、観月茶会等のイベントも盛況であったこと等を説明した。

② 「令和3年度 資料調査・収集・管理等業務 実施概要」（資料4－2）について

委員より、内野醤油の管理に関し、令和4年度から所管課となる文化政策課の業務内容について質問があり、事務局から文化振興全般に係わる内容であるが、特に皆春荘、松本剛吉邸、清閑亭、古希庵など古い建築物の利活用について担当していることを説明した。

また、建築物の内装等の改修に関する方針について質問があったが、文化財課、文化庁等の関係機関と連携を取りながら進めていることを説明した。

さらに、委員から内野邸に使われている石材は貴重なものであるので、慎重に管理してほしいとの要望があった。

③ 「令和4年度 博物館構想推進事業における取組概要」（資料6－1）について

デジタル資料のアップロードに関する質問があり、高精細データについては容量の関係から個別対応としていることを回答した。

また、デジタルミュージアムに関し新博物館建設について質問があったが、デジタル化と博物館の建設は別の問題として捉えており、今後、バランスを取りながら建設について検討していくと回答した。

さらに、デジタル化はバーチャル体験ができ、大学のオンライン授業等、研究する場面においても大変有効であり、今後とも様々な分野と連携を取り内容を充実させてほしいとの意見があり、事務局から細部や裏側の観察等デジタルでなければできない利点もあり、博物館に来ていただき本物に触れる導線としても充実させていきたいと回答した。

④ 「令和4年度 博物館構想推進事業における取組概要」(資料6-2)について

本件について次のような討議が行われた。

(ア) デジタルミュージアムの創設と新博物館の建設の関連性について質問があり、デジタルミュージアムと博物館建設は別個の問題として考え取り組んでいくことを回答した。

また、デジタルミュージアムが創設されたことにより、新博物館建設の流れが滞らないように進めてほしいとの要望があった。

(イ) デジタルミュージアムの創設に係る予算について質問があったが、国の補助金に係る規定から前年度末に事業決定、6月市議会定例会における補正予算、業者選定などで上半期を費やすタイトな日程となったことを説明した。

(ウ) デジタル化を進めていく過程において、リスト化したことにより資料の保全が疎かになってしまうことが懸念されるので、郷土文化館の収蔵方針を明確に持ちながら進めてほしいとの要望があった。

(エ) 養護学校では文化芸術に触れる機会が少ないので、この企画をぜひ進めてほしいとの要望があった。

(オ) デジタルミュージアムに注目してもらうためにどのようなことを考えているのかとの質問があり、年齢層は特定せずすべての方が楽しめるものとすることを目標とし、通常の展示では見ることができない、細部拡大、資料の裏側、3D化などの利点があるため、タブレットの普及が進んでいる小・中学校の教育現場で教材として活用していただくこと考え、教育研究所と相談を進めていること、また、デジタルミュージアムを見て本物の資料を見るために足を運んでいただけるよう、コンテンツの充実を図っていくことを説明した。さらにコンテンツの充実に関し、相模原市博物館において、学芸員がブログ細やかに更新しており参考としたい旨を報告した。

(カ) 委員より、デジタルミュージアムはデジタル上で関心を持ち実物を見てみたいという気持ちにさせることが重要であり、また、見に来てくれた方に対する対応も、今後さらに考えていかなければならないとの意見があり、事務局が今後とも留意しながら進めたいと回答した。

(キ) 委員よりアーカイブ化、WEB公開の両軸で進めてほしいとの要望があった。

(ク) 想定しているアクセス数について質問があり、年間12,000件程度を想定していると回答した。

(ケ) データのサーバの管理体制について質問があり、博物館関係のデータ管理に実績のある業者に委託する方針であり、大学等の研究機関も外部業者によるサーバ管理が進んでいること、小田原市が契約している業者は、災害対応のため、東日本、西日本の2箇所管理していることを説明した。

⑤ 「令和3年度施設管理・整備活用関係業務概要」について（資料5）

委員より、ボーリング調査を行った理由について質問があり、事務室及び会議室はお濠側に傾斜が進んでおり、来館者の安全性、貴重な資料の保存の観点から現状を正確に把握するため実施したことを説明した。

⑥ 「その他」について

委員より、郷土文化館協議会の第1回目の開催時期について質問があったが、事務局より上半期の報告案件と下半期の協議案件とのバランスを考慮して10月、11月頃の開催としていることを説明した。

（2）議題5 協議事項「令和5年度 下半期郷土文化館事業」（資料7～11）

このことについて、会議資料に沿って事務局から概要を説明し、次のような討議が行われ、承認された。

① 「令和4年度下半期 その他普及事業実施計画（案）」（資料14—1）について

関東大震災の調査について、教材として提供することは可能かとの質問があり、100年目の節目の企画展の開催を予定しており、市内で寄贈を受けた資料、図書館が所蔵している資料等と連携し、内容を充実させ教材となるように進めていくと回答した。

② 「令和5年度下半期 博物館構想推進事業における取組計画（案）」（資料18-1）について

委員より、デジタルミュージアムと現在の郷土文化館の展示とのストーリー性について質問があったが、現在、協議中でまとまっていないが、今、展示しているものを順序だてて整理している。郷土文化館に来て展示物を見ながら、デジタルミュージアムのコンテンツと連携し、QRコードにより詳細な説明が見れるようにすることを企画しており、そのためにFree Wifiを導入する予定であると説明した。

以上をもって協議を終了した。

協議後、松永記念館で開催されている特別展「弥生の大集落「中里遺跡展」」の視察を行った。